

# 令和3年度 東京都立桜町高等学校経営報告（全日制課程）

令和4年3月31日

## I 主な取組みと自己評価

### 1 学習指導

「チャイムで授業開始」「私語のない授業」「授業に集中」を教職員の共通理解項目とし、授業規律を維持させるとともに「分かる授業」の展開を図った。生徒に家庭学習習慣を身に付けさせるよう、各教科で週末等の課題や英単語テストを実施するとともに、家庭学習時間調査を実施した。昨年度の調査平均は2時間以上39%まで増加したが、今年度も同じ数値を維持した。補習・講習は土日、平日の放課後、長期休業日等に継続して実施した。昨年度は夏季休業日中の講習には、のべ1800名の生徒が参加するなど、参加者の増加が著しかったが今年度は新型コロナウイルスの影響で休業期間が大幅に短縮されたことにより、321名と大幅に減少した。次年度以降は体制を整え、組織的に計画を進めて参加者の大幅増を目指すものとする。平成30年度までの英語教育推進校としての取組を基軸としてGTEC・英検の全員受検、TGGプログラム、ブリティッシュヒルズへの参加等により学校として英語学習を計画的に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響等により全て中止または変更となった。次年度は再度体制を立て直し、全学年で組織的に学力の伸長を目指す。

### 2 進路指導

今年度から、東京都教育委員会から進学指導研究校の指定を受け、より組織的で充実した進路指導を目指して進路指導を中心に全校を挙げて取り組んだ。今年度の進路状況は、卒業生300名中、現役進学者259名、進学率86.3%（昨年度81.8、一昨年度82.0%）となった。四年制大学184名（61.3%）、短期大学9名（3.0%）がそれぞれ進学し、大学進学準備は41名であった。指定校推薦・公募推薦・総合型選抜入試での合格は四年制大学合格者中65.5%（昨年度65.5%、一昨年度64%）であった。また、大学入試共通テスト受験者がここ5年間で116名→197名→108名→166名→125名と増加傾向にあり、生徒の一般受験志向が高まっている。合格実績では、国公立大の合格者は1名（昨年度0名）。難関私大・「GMARCH」等の大学合格者は6名（昨年度0名）。「成蹊、成城、武蔵、明学」「日東駒専」等の中堅私大の合格者は59名（昨年度19名）と急増した。1、2学年では各教科の週末課題や数学の土曜講習が定着し、3年間を見通した計画的な学習指導・進路指導が定着して、将来を見据えてのキャリア教育にも取り組んでいる。今年度から、PTAと同窓会の協力により、新たに希望者を対象とした予備校講師による英語の土曜講習を実施し、年間を通して71名が受講した。

### 3 生活指導

挨拶の励行の浸透を今年度も引き続き推進した。本校志願者が常に一定程度以上を保つことができているのは、生徒達が来校者にもきちんと挨拶をしていることが大きな要因となっている。また、服装及び頭髪指導、遅刻指導を生活指導部の主導で学年と連携して定期的に実施した。さらにマナー向上週間・校門指導週間を実施して全教員で指導を行い、生徒へ学校指導方針を示したため、今年度も頭髪や服装で課題のある生徒はほとんどいなかった。これらのことが、落ち着いた学習環境を保たせている。スクールカウンセラーによる1学年生徒との全員面接も年度当初に実施し、教育相談体制の整備を図った。いじめの報告はないが、SNS等で不用意な個人情報に掲載することや中傷表現をしないよう指導を強化している。

### 4 特別活動

部活動参加率は64%（昨年度66%）であり、各部は意欲的に活動した。文化部では、軽音楽部が今年度の全国大会の予選において優勝し、全国大会では準グランプリを受賞したその他の大会でも常に上位入賞を果たしている。一昨年、青少年健全育成功労者賞を受賞した天文部は、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域の小学生を招いての天体観測会を中断していたが次年度は再開する予定。演劇部は中央発表会への出場を逃したものの、演技内容・部の活動としては高いレベルを保つことができた。運動部では、水泳部、バドミントン部が関東大会出場を目指している。その他にも野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部等が上位リーグや都大会等へ進出を目指している。今後も部活動加入率を高め、活動の活性化を図っていく。

### 5 国際理解教育

北京滙文中学校との姉妹校提携交流は、昨年度40周年を迎えた。例年実施している滙文中学校訪問研修旅行は、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったが、今後、記念行事等を企画しており、生徒会や「中国語」の選択生徒等を中心に滙文中学校への訪問も実現させたい。また、TGGでの1・2学年生徒全員を対象の英語研修、ブリティッシュヒルズでの希望者対象の英語研修等を実施することで、生徒の国際理解教育に対する意識の向上を図っていく。

## 6 地域連携

深沢中学校との交流を続けているが、新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は校長、副校長、教務主任間での連絡調整のみ行ったが、今後も合同研修会等を継続実施する。地域行事に生徒会や吹奏楽部、演劇部等が積極的に参加するとともに、部活動等による地域美化活動を実施した。また、昨年度は天文部が町内会の方々や地域の小学生を招いての天体観測会を3回開催した。それらの地域活動が評価され、模範団体として東京都の小池都知事から表彰を受け、更に世田谷区教育委員会からも表彰も受けた。また、生徒会が新たにフードドライブの活動を行い、集まった食材を地元のこども食堂へ寄贈し好評を得たが、今年度は新型コロナの影響もあって、予定していた活動は内容を大幅に縮小して実施した。

## 7 広報活動

広報活動は、東京都の方針に沿って、新型コロナウイルスの感染防止ガイドラインに則り実施した。学校見学会（夏季休業日中・15回、参加者1672名、昨年度241名）・学校説明会（年4回、751名）・相談会12回、44名、合同説明会（1回、83名）。今年度は夏季の見学会受付を電子申請とし、ウェブサイトにも部活動の様子や説明会の案内などを頻りに掲載し、新しい情報の提供を心がけた。また、学校案内も見やすい内容と構成に衣替えした。同窓会の支援により、学校紹介用の動画を新たに作成し、校歌のCDをリニューアルした。

## 8 校内研修

年間7回の校内研修を計画したが、授業改善及び進路指導に関する校内研修は、新型コロナウイルス対策の内容として、オンライン授業及び特別支援教育に関する研修にそれぞれ内容を変更して実施した。広報活動、服務規律に関する研修は予定どおり実施した。

## 9 ライフワークバランス

教職員の働き方改革と生徒の指導の効率化を図りながら教育の効果を維持するため、部活動指導員を活用するなど、工夫を検討している。また、学校閉庁日を5日間設けて、年休等を取りやすい環境を設定した。

## 10 デジタル技術を活用した教育の推進

コロナ禍における、オンライン授業の校内環境の整備と教員の指導力の向上に、ICT推進委員、を中心に全校体制で取り組んだ。今年度中に全教員がオンラインでの授業を実施した。また、対面での授業においても、デジタル技術を活用した授業が定着しつつある。来年度から導入される生徒の一人1台端末の導入に対応するためにも、研修や研究授業を通してデジタル技術を活用した教育の一層の充実を図る。

## II 数値目標とその達成度

数 値 目 標		達 成 度	
1	生徒の本校に対する入学満足度80%以上	入学満足度	85% ○
2	生徒の授業に対する満足度80%以上	授業満足度	78% △
3	家庭学習時間（2時間以上）達成率40%以上	2時間以上	38% △
4	部活動の加入率70%以上	加 入 率	66% △
5	センター試験受験者数130名以上	受 験 者 数	125名 △
6	中堅私立大学以上の現役合格者30名以上	中 堅 以 上	66名 ○
7	夏期講習参加者数のべ2,000名以上	参加者数のべ	1374名 (新型コロナウイルスの影響により 期間縮小のため参考値)

## III 次年度以降の対応策

### 1 学習指導

「チャイムで授業開始」「私語のない授業」「授業に集中」を基本として、「分かる授業」を行うことはもとより、アクティブラーニング等、生徒が「学び、考える」授業となるよう授業内容ともに授業形態を推

進する。また、個別学習システムを導入し、自ら学習する基本として家庭学習習慣を身に付けさせるための指導を行う、教科・学年で活用するとともに、校内研修等を通じて全教職員が進めていく必要がある。補習・講習の充実を図り、生徒の希望する上級学校に進学できるように努めるとともに、長期休業日中の講習は部活動をしないう講習日の設定等、組織的に取組み、講座や実施時期を早めに生徒に提示し、多くの生徒が受講しやすい環境づくりを図る。

## 2 進路指導

今後も進路指導を充実して学力向上への意欲と取組を進め、大学入学共通テスト受験者を増やし、一般受験で上位校を目指す指導を進め学力向上を図っていく。キャリア教育を進めて安易な大学選びではなく、自分の生き方を考えた進路選択とその結果としての「入りたい大学」選定を指導する。高い目標を立てさせ、それを目指し、実現する指導、第一志望の進路に最後まで挑戦させる指導を進める。1年次から計画的な進路指導体制を充実させ、生徒が希望する進路を叶えられるように取組み、伝統に裏打ちされた進学校を目指す。また、保護者対象進路研修会の開催により、保護者と教員が連携した進路指導を推進する。

## 3 生活指導

現在の落ち着いた学習環境は、教員の地道な努力とそれに応える生徒達によって作り出されてきた。授業規律を高める「私語のない授業」をはじめとする学習指導、頭髪・服装・遅刻指導・挨拶の奨励等の生活指導を学校全体で行うことによって、基本的生活習慣を生徒達が確立してきている。引き続き全教員が一丸となった指導を行い、本校に対する保護者、地域等からの高い評価と信頼を維持していく。

## 4 特別活動

生徒の学校行事に対する意識は、非常に高い。生徒会執行部や実行委員会を通して、生徒が主体的に参加する意欲や成就感をもつような指導を推進し、学校生活への意欲と愛校心や帰属意識を高める。また、近年、桜華祭（文化祭）は、HR参加の発表も多くの工夫がみられるようになってきた。新型コロナウイルス対策を継続しながら、今後も見応えのある発表を行うような環境づくりが必要である。加えて、部活動指導者への指導を強化し、体罰を起こさない、生徒が安心して活動できる雰囲気づくりを一層推進する。

## 5 国際理解教育

41年目に入った北京滙文中学校との姉妹校提携交流は、今後も定期的な交流、連絡を行うとともに、滙文中学校訪問を中心とする中国研修旅行について校内でのPRを積極的に行い、一人でも多くの生徒が参加できるように努める。また、英語教育推進校として培ったものを土台にして、英語学習にGTECの活用だけでなく実用英語検定も全員受検させ、JETを一層活用するとともに、英語学習の場を広げるプログラムとしてTGG、ブリティッシュヒルズへの生徒の参加を継続させ、国際理解教育の一層の推進を図る。

## 6 地域連携

深沢中学校をはじめとする中・高連携、地域商店街や町内会との地域連携の継続を図り、地域を大切にす校風づくりを継続する。

## 7 広報活動

引き続き全校を挙げて募集対策に取組み、本校の教育活動を積極的にPRする。学校見学会、学校説明会、体験入部の内容の充実を図り、中学校・塾主催説明会、中学校・塾訪問、出張授業等の活動を継続する。また、塾対象の説明会を新たに計画するとともに、学校案内の一層の充実とウェブサイト（ホームページ）による効果的な情報発信に努める。

## 8 校内研修

教員の力量が高まることは、生徒の教育活動への意欲を高め、主体的に学ぶ姿勢へと繋がる。深い学びを実現する授業力向上のため、教員相互の授業見学及び研究協議をはじめとして、進路指導、特別支援教育、生徒指導等に関する校内研修を継続して実施し、全教員の資質と専門性の向上を図る。

## 9 ライフワークバランス

教職員の働き方改革と生徒の指導の効率化を図りながら教育の効果を維持するため、引き続き、部活動指導員等を有効に活用し、会議の回数の縮減や内容の精選を行うことで、ライフワークバランスの実現を目指す。

## 10 デジタル技術を活用した教育の推進

来年度から導入される生徒の一人1台端末の導入に対応するため、引き続き、研修や研究を通してデジタル技術を活用した教育の一層の充実を図る。